

## 第22回防衛問題セミナー議事録

1 日 時：平成24年9月27日（木）1800～2025

2 場 所：紋別市民会館

3 内 容

演 奏：航空自衛隊北部航空音楽隊

講 演：国連平和維持活動（PKO）について

講 師：陸上自衛隊第25普通科連隊長兼ねて遠軽駐屯地司令 野村 悟

4 議事録：

### 【開会の挨拶】

（北海道防衛局長 島川 正樹）

皆さん、こんばんは。北海道防衛局長の島川でございます。本日は大変お忙しい中、当局主催の防衛問題セミナーにおいでいただきまして、誠にありがとうございます。主催者として、一言ご挨拶申し上げます。

本日のセミナー開催にあたりましては、地元紋別市のご協力をいただき、このような素晴らしい施設を利用させていただくことができました。また、地元紋別市民のほか、近隣の自治体からも多数の方にご来場いただき、心より御礼申し上げます。

さて、私ども北海道防衛局は、これまで全道各地において、多くの方々に我が国の防衛問題、我が国周辺の安全保障環境、国際社会の平和と安定に係る協力などについて、ご理解をいただくことを目的に、防衛問題セミナーを開催してきておりまして、今回の紋別市での開催は22回目となります。

本日は、最初に航空自衛隊北部航空音楽隊によりまず演奏を聞いていただき、その後、講演を行うこととしております。航空自衛隊北部航空音楽隊は、1976年に北部航空方面隊の直轄部隊として発足し、現在、三沢基地に所属しております。主な演奏活動地域は、青森、秋田、岩手及び北海道全域で、広報演奏、各種儀式式典への参加、小学校・中学校・高等学校におけます音楽教室の実施及び学生たちへの演奏技術指導等、地域に親しまれる音楽隊として活動しており、在日米軍基地の米軍音楽隊とも共同で演奏を行うなど、日米親善にも努めてきております。昨年、東日本大震災以降においても、被災地で30回近く慰問演奏活動を行うなど、音楽を通じ被災者を元気づけてくれました。本日は、野村2等空尉の指揮による北部航空音楽隊の力強い演奏で、私たちに勇気と感動を与えていただけるものと思っております。

演奏の後に陸上自衛隊第25普通科連隊の連隊長・野村1等陸佐に講演をしていただきます。野村1佐は先般、ハイチにおけるPKOの任務を終了し帰国したばかりであり、最近の現地の状況、活動内容を伺うことができるものと思っております。

我が国は国際協力の舞台に出まして、すでに20年が経過しており、これまでの国際平和協力活動における自衛隊員の高い規律、責任感、誠実な職務の遂行は、現地の関係者からも高く評価されております。今回のハイチへの派遣についても、瓦礫の除去、道路補修、簡易な施設の建設などのハイチの復旧・復興活動に対し、被災したハイチの住

民や国連関係者から、感謝の言葉が寄せられております。本日は、その現地の指揮官として活動された隊長に貴重なお話が聞けるのではないかと期待しているところでございます。

近年、防衛省・自衛隊に対する期待と支持はますます高まってきておりますが、我が国の防衛政策及び防衛行政は、国民の皆様のご理解とご協力をいただくことが必要であると考えております。当局といたしましては、今後も防衛問題セミナーの場などを通じまして、皆様への丁寧な説明を心がけてまいりたいと思っております。引き続き、私ども防衛省の活動にご支援とご協力を賜りますようお願いしまして、簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしく願いいたします。

## 【演奏】

(航空自衛隊北部航空音楽隊)

演 目：行進曲「希望の空」

インスタントコンサート

アンサンブル 変則木管五重奏

ありがとう

カーペンターズメドレー

アンサンブル 金管五重奏

北国の春

坂本 九メドレー

また君に恋してる

A列車で行こう

全8曲

## 【講演】

(陸上自衛隊第25普通科連隊長兼ねて遠軽駐屯地司令 野村 悟 1等陸佐)

皆様、こんばんは。ただいま多分なご紹介を賜りました、第25普通科連隊長兼ねて遠軽駐屯地司令を仰せつかっております野村でございます。今晚は、人生の諸先輩方を含めて、たくさんの方々にお話を聞いていただけることに大変感謝申し上げるとともに、また恐縮に思うところです。常日頃から遠紋地区の方々には遠軽の自衛隊に非常なご理解とご支援を賜っていますことを、この場を借りて遠軽駐屯地の隊員を代表して改めて御礼を申し上げたいと思います。

今日はDVDを含めて約45分から50分くらいお時間を頂戴したいと思います。どうぞ気楽な気持ちで耳を傾けていただければ幸いに存じます。

私は2年1ヶ月前に北海道遠軽町に赴任しました。この雄大な北海道を満喫しながら充実した勤務をしているところですが、一方で、昨年3月には東日本大震災が起きまして、その時は3月12日から約2ヶ月ほど岩手県の宮古市に行き、そこで復旧活動、救援・支援活動等を行ってきました。このハイチ派遣国際救援隊は、陸上自衛隊の各方面隊を順番にローテーションで回っていたわけですが、東日本大震災の影響でローテーションどおりにはいかないということで、宮古市から帰ってきてしばらくして北海道から派遣ということになったようです。その噂が流れてきて間もないころ、どのような経緯でそのようになったかはわかりませんが、このハイチへの派遣の話が遠軽駐屯地に回ってまいりまして、そして約2ヶ月から3ヶ月準備をしてハイチに赴くことになりました。2月10日に私はこの北海道を発ちました。冬ですので、マイナス25度くらいだったと思います。そしてハイチに着いたらプラスの35度でした。ですから約60度の気温差をこの1晩2晩の間に経験することになったわけです。また後ほど紹介しますが、ハイチは日本のちょうど裏側にあり、今はサマータイムを使用していますが時差は13時間です。ですから日本は今年午後7時10分ですけれども、ハイチは午前6時10分になります。昼と夜が逆転しています。

それでは国連平和維持活動について、私が勤務をしましたハイチ派遣国際救援隊の活動を通して、陸上自衛隊の国際平和協力活動について少しでもご理解を深めていただければ幸いです。

今日は3部構成でお話したいと思います。まずは前半で、皆さん十分にご理解いただいていると思いますけれども、自衛隊の国際平和協力活動とはどういうものかということをお話した後、私どもが派遣をされたハイチでどのような活動をしてきたのかということをご紹介したいと思います。最後にはこの活動を通して私自身が思ったことと、どういう意義があるのかということをお話してまとめとさせていただきたいと思います。なおこの第2部のところで約20分ほど、準備訓練を含めて約8ヶ月間ほどの部隊の行動をDVDにまとめておりますので、ご覧いただくと幸いです。

まずは堅い話になりますが、自衛隊はこの4つが主要任務とされています。当然我が国の独立と平和を守って、国の安全を保って、いろんな侵略に対応するというのが一番重要な任務です。そして必要に応じて治安の維持に当たります。その他、武力を使用しない範囲において周辺事態、国の周りで何か危ないことが起こった時に対応するとか、そしてもう1つが国際平和協力活動の中にPKOが含まれています。

これは何のためにやるかということですが、日本はあまり資源もないし、基本的には貿易によっていろんな国にサービスを提供して国そのものが経営されている。エネルギーもないので、いろんな国が平和で繁栄をしている状態があつて、初めて日本の繁栄が成り立つために、日本だけが平和であってもその平和は維持できないので、全世界が平和であるようにということで、あまり平和ではないところ若しくは困っている地域に自衛隊ができることをして、より国際社会が安定するようにして、ひいては日本の国益の増大に結びつけることが重要であるという認識で、この国際平和協力活動が行われています。

平成4年にカンボジアに初めて自衛隊が派遣されてからちょうど今年で20年という節目になります。この間、10件を超える国際平和協力活動が行われてきました。そのうちのハイチ、ゴラン高原、南スーダンそして東ティモールという4つの地域で、現在も引き続きこの活動が継続されています。

それでは私ども自衛官はどのような地位を有しているかということ、自衛隊員という地位だけではありません。左側のスライドをご覧ください。日本には、内閣総理大臣を本部長とする国際平和協力本部があります。我々はその一員となっています。よってPKOでは、カンボジアの際によくニュースになりましたが、警察官も行かれています。文民の方も行かれるのですが、彼らと同じ地位を有しています。そのシンボルマークが左下にある青いワッペンになります。一方で、防衛省の中では陸上部隊、海上部隊、航空部隊としてそれぞれ派遣される部隊、この2つの地位を有しています。このロゴマークが国際平和協力本部の隊員というロゴマークです。こちらは丸いワッペンでPKOの隊員ということを表す、直径10センチくらいのワッペンですが、国連から付与されず。自衛官は、この2つを右肩と左肩につけて活動することになります。

では、ハイチ派遣国際救援隊の活動です。2月から8月まで、主に瓦礫の除去や敷地の造成、簡単な建築作業、河川の浚渫、浚渫というのは、簡単に言うと川に溜まった堆積物を取り除いて川の流れを良くするという活動ですが、そのような活動をやってま

いました。そこで、施設作業とそれに付随する作業について簡単に説明させていただきます。

項目についてはご覧のとおりです。

左は第5次隊、第5次隊というのは九州から来た部隊でした。第5次隊長から私、第6次隊長に今から頼むということで責任が転与された瞬間です。右の画面につきましては、私ども第6次隊から第7次隊に責任を転与した瞬間です。この第7次隊というのは主に守山（愛知県）に所在をする第35普通科連隊を基幹とする部隊でした。

では、皆さん十分ご承知とは思いますが、ハイチについて、地理・文化について簡単にお話させていただきたいと思えます。ハイチは日本の東側、大体1万3千kmくらいのところにあります。先ほど申し上げたように時差は13時間です。

ハイチは、カリブ海のイスパニョーラ島というところに位置していて、東側はドミニカ共和国に国境を接しています。面積は大体北海道の3分の1に相当して、気候は熱帯のサバナ気候です。私どもがいた時は、最高気温は高く41度くらいで、低い時で35度くらい、平均で38～9度くらいだったと思えます。そのかわり、湿度が意外と低く、一番湿度が高いのは気温が一番低い時でした。大体朝5時～6時くらいで気温は25度か26度だったでしょうか。その頃に湿度が一番高く40%くらいでした。気温が一番高くなるのは午後3時～4時くらいです。この時の大体の湿度は5%とか6%なので非常にカラッとしていました。日本に帰ってきて、夏でも涼しく感じるかと思っただんですが、帰ってきたらハイチにいる時よりも汗をかいたのを今でも覚えております。

ハイチは1804年に独立しております。黒人の国家としては最も早く共和国として独立をした国です。人口は980万人ということで、北海道の2倍弱です。そのうちの約3分の1が首都に集中しておりますので、非常に人口密度が高いです。公用語はフランス語とクレオール語。クレオール語というのは、彼らはアフリカから奴隷貿易によって連れてこられた人たちの子孫なんですけれども、そのアフリカの現地の言葉とフランス語がミックスしたような言葉です。黒人が約95%で、混血の人はほとんどいません。残念ながら総成人の7割が失業しております、また総人口の8割の方が貧困層であるという状況です。

先ほども申し上げましたが、ほとんどがアフリカから連れてこられた奴隷でした。ですから文化についても、アフリカそのものです。

ハイチは、政治も非常に混乱している状況が今も続いています、衛生環境も非常に劣悪な状況にあります。カリブ諸国は、アフリカに次いでエイズが蔓延している地域です。人口の約4%から5%の方が、残念ながらHIVに感染している状況で、カリブ諸国の中でもハイチは最も酷い状況にあるようです。また、南国特有のマラリア蚊などの様々な蚊がいて、これらがマラリアとかデング熱を引き起こす元凶になっています。

水質汚染も非常に問題になっています。地震発生以降、水質汚染が、特にコレラが流行する主な原因になっているようです。

これがハイチの典型的な河川です。上下水道はほとんど整っておらず、また堤防などもほとんど未整備です。また、住民の方々が、全員ではありませんが、あまり衛生観念が高くなく、焼却場なども整っていないため、ゴミはほとんど河川に捨てられています。また、生計を立てるため、火をおこすために、ハイチでは昔から山々から木を伐採

して、そこに計画的に木を植えることをしてこなかったため、同じイスパニョーラ島にドミニカ共和国とハイチ共和国がありますが、ドミニカには豊富な木々が覆い茂っていますが、一歩ハイチに入るとほとんど木々がありません。このようなことで、山が水を含む能力がないため、一気に水が河川から流れてきて、また河川そのものも十分に水を流す能力がないため、スコールがくるとすぐに道そのものが川になってしまうほど酷い状況になります。また、ゴミをどんどん捨てていくため、これらが衛生状況を悪くする原因になっています。

次にハイチの地域の概要を申し上げますと、行政区分上で10の県に分かれており、ポルトープランスは西県というところにあります。

次に治安の状況です。一般的に「治安は安定している」というふうにニュースでは言われておりましたが、「必ずしも安全ではない状況が安定している」ということで、「安全な状況」「100%安全です」という状況とは必ずしも言えないというのが本当のところでは。私どもが任務、仕事を始めた2月下旬から8月中旬まで、凶悪犯罪、特に殺人が、首都ポルトープランスを除いて少なくとも数十件確認をされています。またデモとか、道路を封鎖して抗議をする、ロードブロックといいますが、これが200件以上全国で確認をされています。デモとかロードブロックはこの円がある地域以外で起こっています。また首都の辺りでは、凶悪犯罪が多く起こる傾向にあります。

この住民の抗議活動の内容はいろいろありますが、グラフに示すように、全般的には電力を要求する内容が統計的には多かったようです。

今度はポルトープランス、首都を含む周辺の状況です。左画面をご覧ください。ポルトープランス、首都は、私どもが宿営地を持っていた地域です。これは国連のキャンプ・チャーリーという宿営地でした。それが所在するタバエ地区というところ、デルマという地域、シテ・ソレイユという地域、そしてポルトープランスの中心部に分けられて、その周りにクロワ・デ・ブーケ、ペションヴィル、そしてカルフルという地区がありました。右画面に示しますように、「ここは治安上注意が必要です」ということで国連が指定をしていた地域です。このほか、赤で囲った地域は特にギャング団が抗争していたり、またギャングが暗躍して非常に悪いことをしているという危険な地域でしたので、ここは基本的にはよほどの理由がない限りは立ち入ることをせずに活動しております。この4ヶ所が非常に注意を要したところです。

次に首都の周辺の凶悪犯罪の状況です。凶悪犯罪は首都では非常に多く、特に夏に向けて毎年多く発生しているようです。もちろん新宿などでも凶悪犯罪が起きていますが、やはり件数的にはハイチの方が圧倒的に多いようです。私どもがいた間でも計数百件起きていました。そのうちの7割が西地区に集中をしております。凶悪犯罪の7割が銃による犯罪でありました。中でもボストン、ベルエア、フォートナショナルに加えてマルチサンといった地域には特に注意が必要だと言われておりました。今ちょっと強調したカルフルというところは、国連の司令部からは指定はされておりましたが、日本隊として統計をとると危なかったため、日本隊として特に注意を呼びかけた地域であります。

次にデモやロードブロックの状況ですが、デモは150件以上の発生を確認しました。特に行政への不満とか、「私に仕事をください」というようなデモが非常に多い状

況でした。冒頭申し上げたように成人の約7割が失業状態でしたので、雇用を求める声というのが非常に多かったです。このような抗議活動は行政機関が多く所在したポルトープランス中心部でよく起こっておりました。ハイチの方々は、自分たちの要求を通す手段として、このようなデモや道路を封鎖して自分の要求を通すということを日常的に行う傾向にありまして、また驚くべきことにこの抗議活動を仲介する業者も中にはいるような状況でした。

また、国連の関連組織にも窃盗や強盗がよく入っていました。特に日本隊がいるキャンプ・チャーリーや国連の司令部のあるところは、いろんな施設機材や金品があったりするので、ギャング団の中にはこれらを虎視眈々と狙っているような輩も存在したようです。

続いてコレラの状況です。コレラの感染は、2010年10月くらいから始まっています。約2年間で患者は約58万人を超えており、入院患者は約31万人、亡くなった方は7,500人を数えています。一時期は小康状態になったのですが、雨期の到来とともに感染者数が跳ね上がるという状態でした。ちなみに今年は、4月初めの雨期がきてから約4万5千人の方が罹患され、2万5千人の方が入院、約300名の方が残念ながら命を落とされたという結果になっております。

次に私ども日本隊がベースとした宿营地とその周辺環境についてご紹介いたします。日本隊の宿营地は、ポルトープランス市の中心から約10キロほど東に行ったところにありました。国連の多くの部隊が駐屯しているキャンプ・チャーリーというところに所在しておりました。これはキャンプ・チャーリーの中の状況です。このように、他の国はネパールとかチリ、エクアドル、ボリビア、ブラジル、ペルーの歩兵中隊、そしてパラグアイ、インドの武装警察などと一緒にいて、そのほかに国連警察の本部や文民の方々が居住している地域が一堂に会してキャンプ・チャーリーに寝泊まりをして、それぞれ自分の地域を警備していました。各国同士が非常に仲のいいところが多くて、週末は文化交流や会食、スポーツ交流をして相互理解を深めておりました。また後ほどご紹介いたします。

これは私ども日本隊が駐屯していた宿营地の全体の様子です。大体この周り、周囲が900メートルくらいありました。この周りはジョギングができる状態で、10周すれば大体10kmくらいとなります。この宿营地の中を大きく4つに分けていて、ここは生活するところ、これが勤務をするところ、管理・整備地区、そして駐車場地区、そして一番右が正面玄関になっていました。

次にハイチの被災状況と復興の様子的一端を簡単に紹介したいと思います。ハイチの災害は約2年半前、2010年の日本時間の1月13日午前6時53分に発生した地震によるもので、震源はポルトープランスから南西に約17キロ下がったところです。推定のマグニチュードは7.0、推定死者数が11万人に及んでおりました。単一の地震災害といたしましては、近年では空前の大規模のものとなっています。

これは2年半前にニュースでもよく取り上げられていましたけれども、大統領府の様子です。左が震災前、これが震災後です。残念ながら今もこの状態で、潰れていて機能しません。大統領はいらっしゃるんですけども、どこで勤務されているのかと思ったら、ちょうどこの裏にプレハブを建てていて、そのプレハブで執務をされているとの

ことです。

次に道路の状況です。発災当初は、住民の方々が手作業で瓦礫や木を積み上げ、その瓦礫を道路脇に置いていたり、道路上にテントを張っていたために、車両がなかなか通行できないような状況になっていました。今ではこのようになりかなり整備が進んでいる状況です。

これはハイチの河川の状況です。先ほど申し上げたように、左画面が整備する前、浚渫といって川の堆積物を除去する前の状態ですが、このように川の上を覆っているのは全て発泡スチロールなどのゴミです。トイレなどもなく、貧困層の方はこういうところをトイレとして使っているのが、非常に衛生状態がよくない状況になっています。雨期が来ると、これらが氾濫をしてポルトープランスの中心部が溢れかえります。そこで病気が蔓延をします。ハイチの政府は、雨期が来る前に主な衛生的ではない河川の堆積物を取り除くということを最優先の事業として位置づけていました。ですから、日本を含む施設活動を行う部隊が全力を挙げて雨が降る前に河川を整備していく。そして右のスライドのように最低限、しっかりと水が流れるように整備をしています。これはブラジル軍の施設部隊と協同で作業して完成した時の様子です。

ご覧いただいておりますのは、国内避難民キャンプ、いわゆるIDPキャンプというものです。地震が発生して自分の家がなくなってしまったので、大きな空き地・広場を利用して、そこにビニールシートなどを活用して応急的なテント生活を送っていらっしゃいます。左は大統領府、先ほど壊れた大統領府を紹介しましたが、それが中心部のIDPキャンプが分布している状況です。約2年前は770ヶ所ありましたが、今では大体570～580ヶ所になっています。世帯数は10万世帯くらいです。2年前の7月は130万人の方々がこのような生活をしていらっしゃったんですが、今年の7月では、それが大体39万人まで減ってきているということで、確実に復旧・復興が進んできていることが伺われます。

続いて、MINUSTAHと書いてありますが、これはハイチ安定化ミッション、ハイチにおける国連部隊の司令部の概要です。

国連事務総長特別代表、国連の事務総長・潘基文氏がいらっしゃいますけれども、その方の代わりにハイチに来て国連の活動を指示していらっしゃいます。この下に軍事部門と2つの民事部門、計3つの柱でこのハイチ安定化ミッションを行っています。

この右サイド、左サイドはそれぞれ事務総長の特別副代表です。それぞれご覧のスライドのように、片方の副代表は人権や司法などを取り扱っており、もう一方は性問題や児童保護、人道開発などを担当しており、お互いに分担してそれぞれの所掌業務を扱っていらっしゃいます。

続いて軍事部門です。軍事部門は、司令官がブラジルのグラード少将という方でした。副司令官がアルゼンチンの「准将」と言いますが、この2人の将軍の下に、ご覧のような大体15～16カ国から集まった24個の部隊から構成されています。またこれらの活動の作戦を立てるところが、この幕僚組織になります。日本隊もこのうちの1つの部隊として役割を果たしています。全部で7,300名の組織になります。このうち幕僚組織（参謀組織）にも兵站、後方支援を取り扱う部署、それから施設作業を取り扱う部署、それぞれに陸上自衛官が1名ずつ勤務をしています。



これは部隊の様子です。この写真で強調されているところは隊本部です。

そして、隊の活動の後方支援をする本部管理中隊と2つの施設中隊、施設活動を実際に行うこの組織の中心になる部隊です。さらに、昔で言う憲兵隊、警察機能を有する部隊。最後に物資の調達をする、ドミニカで物資を調達してハイチまで持ってくる、ドミニカ分遣班という部隊で構成されていました。

今ご覧いただいているのは、約2年半にわたるハイチにおける活動の状況です。日本は2010年から部隊を派遣していますが、このハイチ安定化ミッションは2004年から続いています。このミッションのそもそもの目的は、ハイチという国が行政組織も不十分で、また治安も非常に悪かったため、治安の回復や安定を図るためにPKOとして設立されたものです。日本は地震が発生してから、元々状況が悪かったハイチがますます地震によって悪くなったため、せめて地震によって機能が失われたところを元に戻す作業に貢献しようということで、そこから部隊を派遣して、そして今まで第1次隊から約半年ごとにずっと活動をしてきていて、今は第7次隊が任務についております。

左側の業務をご覧ください。2010年から行ってきた瓦礫の除去や整地、造成、河川の堆積物の除去などの作業は、8月中旬現在で242件です。災害派遣は4回やっています。それから軍民協同活動、後でご説明しますが、これは31件行っています。

右のスライドは第6次隊が実施した活動の状況です。これが私ども第6次隊が行った活動ですが、そのうち、大きな建設作業と人材育成事業について簡単にご紹介いたします。

これはトゥルベという地域にあった小学校を約3ヶ月かけて再建をしたものです。国連に予算を要求して事業の意味を説明して、そして予算をもらって、学校を再建します。このスライドは学校を再建してほしいという小学校の校長先生ですが、お互い協定書を交わしている状況です。

左は建設中の模様、右は完成した時の模様です。後ほどDVDで紹介します。

これは、ハイチの方々にも重機の扱い方を教育して、免許を付与する事業です。これをハイチの政府と協力して、大体4週間で1つの教育期間として3つの教育、計23名に教育を施してまいりました。

これがその時の様子です。これもDVDで紹介をします。

次に軍民協同活動です。私たちが活動するにあたって、私たちが理解していただくために、地域の住民に文化紹介をしたり、衛生教育を施して理解を促進するための活動です。ここでは太鼓や綱引き、空手、習字、医療教育などを行ってきました。

次にその他の活動を紹介します。

これはキャンプ・チャーリーの中において、空手の練習をブラジルの部隊と一緒にやっている様子です。左の写真は、特に南米の部隊が多かったので、サッカーが非常に盛んで、サッカーの交流試合などもよくやったものです。

これは国連の任務に3ヶ月以上、90日間従事するとメダルがもらえるんですが、そのメダルを授与する時の式典の様子です。4カ国で協同して、ハイチでは初めての試みでしたが、日本隊が主体となって、取りまとめて行ったものです。

これは防衛副大臣が視察に来られた時の状況です。

これは、左はハイチにいらっしゃる邦人の方々、それから大使館との交流の様様で

す。右は中京地区、中部地方を拠点として活動されているDJもされているんですけども、内田あやさんという女性の方がハイチに慰問コンサートに来られた時の状況です。

それではここで、この6ヶ月間の活動をまとめた映像を紹介をいたしますので、ご覧いただきたいと思います。

#### －DVD上映－

それでは最後に所見を手短に申し述べたいと思います。

まずはハイチだけではありませんが、日本を出て初めて日本の素晴らしさを思い知った次第です。環境も素晴らしいですし、人との繋がりも素晴らしい。それからコミュニケーションも素晴らしいと思います。各種行事の文化紹介においては、他の国は大体踊りなどを1つ2つできればいい方です。日本は武道でも何種類もありますし、食事も素晴らしいし、踊りだってたくさんある。太鼓だってある。非常に文化が多様な国です。このような2,600年以上の歴史を持つ日本の素晴らしさを実感しました。

赤道の反対側にある南米の国ともいろんな仕事をして、いろいろコミュニケーションをしていくと、彼らは大東亜戦争以前に日本が大きな国、ロシアや中国、アメリカと戦っていた時のことを非常によくご存じです。そしてそれをよく戦って、しかも負けたけれども、あの敗戦の状況からここまでの大国を造ったということをよくご存じです。あれだけのすごい戦いをした国だから、陸上自衛隊もすごいに違いないという目で見ていらっしやいます。ですから、そういう国とはやっぱり争いごとを起こしてはいけないというふうに見ているようです。私たちがそういう期待を裏切らないようにすることが、大東亜戦争以前の私たちの先人、諸先輩方の魂に報いることになるんだろうと思った次第です。

次に、国民の皆様、そして地域の住民の方々のサポートの重要性です。私どもは向こうに行ったら当然、残留部隊が発生することになります。その残留部隊とそれから残った家族を守ってくださるのは、やはり地域の方々でした。また今回、遠軽町長、町議会議長、そして商工会議所の会頭の方々がハイチまで激励に来ていただきました。このことをハイチの任務に参加している他の部隊長に話をすると、ほとんどの人が高い興味を示します。ベトナム戦争でもそうであったように、どこの国の軍隊でも、国民または地域のサポートがあるということが非常に重要であるということをよくご存じで、そこまで強い地域の信頼があるのかということを理解をされるだけでも、またこれで日本の抑止力が上がるんだろうということをお思い知った次第です。

隊員一同も今でもこの激励についてはよく話をするんですが、遠軽町長をはじめとする地域の方々のご支援とご理解には改めて感謝を申し上げたいと思います。

あと、どこの国の部隊もやってはいけないこと、それからやらなくてはいけないこと、それが単純なことであればあるほど、最小公倍数的に、共通的、普遍的にその重要性は理解されております。でもそれができているところ、できていないところがあるんだということがわかりました。ですから、これをきちんと行うことができれば、きっとこの部隊が本気になれば怖いに違いないと思わせることができ、抑止力に繋がるんだと思います。

最後に、そういうことをするためには普段の訓練、普段の規律などをきちんと行っておくことが、やっておかないといざやれと言われてもできないので、普段の勤務の重要性を思い知った次第です。

我々は施設活動に行きましたが、それらを通して、究極的に私ども自衛隊ができる仕事というのは、現場レベルでも少しでもわが国の抑止力を維持・向上させることが国際貢献活動の意義なんだろうと感じております。

最後になりますが、私どもの半年間の活動を支えてくれた家族はもちろん、ここにいらっしゃる方々をはじめとする遠紋地区の全ての皆様に、派遣部隊を代表して御礼を申し上げたいと思います。引き続きこの遠紋地区に所在する遠軽駐屯地に対するご支援とご協力を改めてお願いして、ちょっと長くなって申し訳ありませんでしたが、拙い話を終わらせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

## 【質疑】

質問者：ハイチへの日本部隊の派遣は、いつまで行われることになるのでしょうか。

野村 1 佐：日本政府がこの夏までいろいろと検討を重ねて決定しておりますが、来年の 1 月末から 2 月くらいまでかけて、日本部隊を撤収させることになっていきます。この判断の背景には、このプレゼンテーションでも申し上げたとおり、地震の起きる前の段階まで復旧することがそもそもの目的であったため、概ねその状態まで回復しただろうという政府の判断に基づいて、自衛隊が撤収することになります。

質問者：様々な地域から厳しい訓練を受け、順々に部隊が派遣されているようですが、派遣される部隊はどのようにして決まるのですか。

野村 1 佐：これらの任務については、突発的に起こった時には、一番最初に中央即応集団という、朝霞に司令部がある部隊の中に緊急に展開する連隊があり、そこがまずは行きます。その部隊が基盤を整えた後に、北部や東北、それぞれの方面隊でローテーションをしながら部隊が派遣されることになります。例えば北部方面隊が行くとなったらどうなるかという、その任務の特性に応じて部隊が指定されます。例えば、今回のように施設活動が主になった場合には、北部方面隊の施設の活動ができる部隊の中で、その年度のいろいろな業務や部外への支援や訓練、そういったものを勘案して最も派遣されやすい部隊を指定し、その隊員の能力や中には家庭の事情などで行けない隊員などもありますので、そのようなことを勘案して部隊を指定することになります。これがもし航空部隊となると、北海道の中のヘリコプターを持っている部隊から主に隊員が選定されますし、医療活動であれば、医療部隊、衛生部隊の中から主に選定されることになります。

質問者：実際に持っていった小火器だけで身を守れると思いますか。

野村 1 佐：今回私どもが派遣されたハイチという国には、ゲリラ部隊や反政府軍というような軍事組織は存在をしません。せいぜいギャング団くらいです。10代や20代くらいの人が多かったようですが、彼らは持っていてせいぜいナイフやピストル程度です。ですから、そもそも重火器を持っていく必要がありません。そしてこのプレゼンテーションでも申し上げたように、非常に危ない地域とそうでもない地域との住み分けが比較的されていまして、国連からもらえる情報と日本隊が行う情報活動をしっかり行って、安全な経路を選び、安全な活動場所をこれも国連と調整して選定し、そこで活動をしていまして、基本的には十分に活動できたものと考えております。

以 上